

生徒が自ら運動の楽しさを求めて活動する学習指導の工夫
——武道（剣道）の授業をとおして——

目 次

I	テーマ設定の理由	89
II	研究構想	89
III	体育学習の基本的な考え方	90
	1. 運動を目的・内容とする体育学習	90
	2. 運動の特性，領域，種類の分類	90
	3. 学習のねらい	91
	4. 学習過程	92
	5. 学習形態	92
	6. 学習活動	93
	7. 学習指導	93
	8. 学習の場とルール	93
	9. 学習資料	93
	10. 学習評価	94
IV	剣道学習の基本的な考え方	94
	1. 一般的特性	94
	2. 生徒から見た特性	94
	3. 学習のねらいと道すじ	94
V	学習資料	96
	1. 剣道指導のポイント	96
	2. アンケート調査	99
	3. 学習カード	101
VI	まとめと今後の課題	102

生徒が自ら運動の楽しさを求めて活動する学習指導の工夫

— 武道（剣道）の授業をとおして —

浦添市立港川中学校教諭 宮里 芳嗣

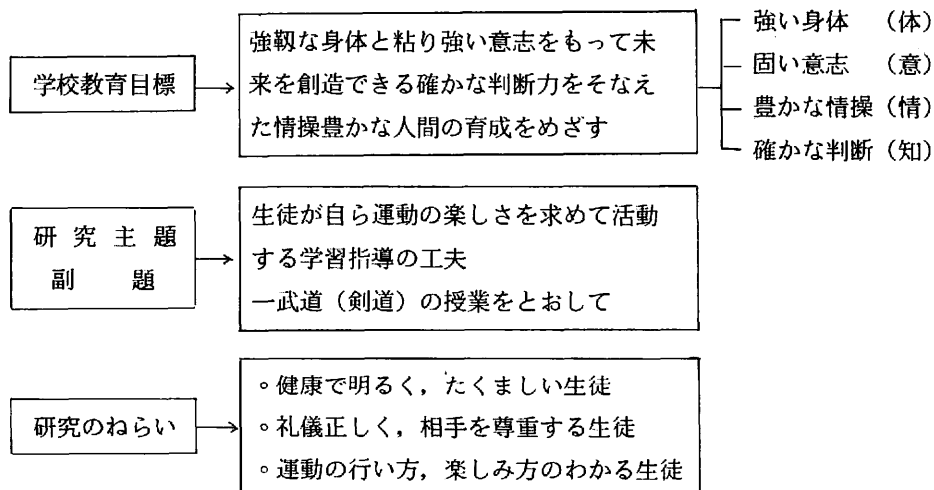
I テーマ設定の理由

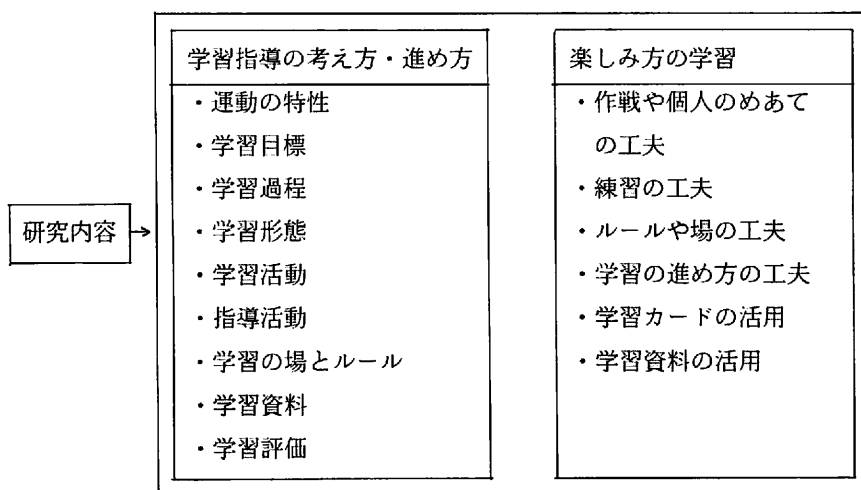
現代社会は、急速な技術革新により、高度経済成長時代を迎え人間の生活水準はいちじるしく向上した。そのために、余暇時間が増大し人間はスポーツに親しむ機会を多く持つようになった。また高齢化社会を迎え、人間は健康、体力を強く認識するようになり、スポーツを行う必要性と欲求の高まりが生じてきた。このことは、健康の保持増進のためのスポーツからスポーツそのものを楽しみ、かつ、生活内容の一部として盛んに行なわれるようになってきた。

一方、これからの社会をより豊かに生きぬく生徒を育てるための体育学習は、生徒一人ひとりにとって、運動・スポーツを行うことの意味や価値は何かを認識させ、運動・スポーツの持つ楽しさを体験できる学習を組織することである。それは、生徒自ら運動・スポーツへの自発的参加と自主的活動ができる態度を育て、マイスポーツとして生涯にわたって運動・スポーツを継続していく力を育てることではないかと考える。そのことは、生徒一人ひとりの興味・経験・意欲・技能等から運動の特性をとらへ直し、生徒に合った学習指導を工夫することではないだろうか。

そこで、本研究では、武道（剣道）の授業をとおして、日本古来の伝統的運動の楽しさを体験するための学習指導の工夫をどうすべきかで、上記の主題を設定して研究を進めることにした。

II 研究構想





Ⅲ 体育学習の基本的な考え方

1. 運動を目的・内容とする体育学習

運動を学習するということは、運動のもつ意味や価値を学習することであり、欲求を充足させるための能力を養うことである。運動のもつ意味や価値を重視することは、自発的・自主的な活動として学習を組織することであり、楽しさ体験から導きだされると考えてよい。運動の楽しみ方を体験したり体得することは、運動のもつ魅力にふれることであり、運動の機能的特性にふれる学習となる。そのことは「運動の学習」であり、運動そのものが目的・内容となる。つまりこれからの体育はすべての生徒が運動の機能的特性を学習できるように組織されるべきである。

また、運動の形や仕組（構造）は学習する生徒がその機能を自発的・自主的に求め触れられるよう生徒に合せて工夫されるべきである。つまり生徒個々の力に応じて機能的特性が求められることによって自発的な学習が可能になると考える。一方、学習活動を方向づける機能的特性が明確で生徒にとって分かり易く、求め触れやすいものであり、しかも特性を求める内容の追求が学習の深まりや広がりを保障するものでなければならないと考える。

2. 運動の特性、領域、種類の分類

運動は行う者のどのような欲求や必要を満たすものなのか、どんな魅力があるのか、どのような目的で運動を行おうとするのか、こうした運動の機能的特性が明らかにされれば、それを生かすことによって運動への取り組み、つまり運動の学習が自発的・自主的なものとなる。こうした運動の行う者に対する一般的な欲求あるいは、必要の充足、魅力などが「運動の一般的特性」である。学習される運動の意味及び価値はこの運動の一般的特性によって示されるのである。

このような特性のとらえ方から、図1の分類を手がかりに、一般的特性を導きだすが学習する生徒は多様である。技能のレベル、意欲や態度、経験等も異なり、一様ではない。生徒達が運動の機能的特性を求め、それに触れながら学習していくためには、生徒の多様なレディネスに

対応するようになさなければならない。また学習する生徒にとって、その運動はどんな特性を持っているか、どこが嫌いなのか、どんな楽しみ方を知っているのか等の「生徒から見た特性」も重視されなければならない。

図1 <運動の機能的特性に基づく運動の分類>

1. 欲求を充足するために工夫されている運動			種 目
(1) スポーツ 挑戦の欲求 に基づくもの	競争型	他人へ挑戦し、勝ち負けを競いあうことが楽しい運動（個人対個人，集団対集団）	球技・武道 上泳
	克服型	自然や人工的につくられた物的障害へ挑戦し、それを克服することが楽しい運動	器 械 水 泳
	達成型	記録やフォーム等の観念的に定めた基準に挑戦し、それを達成することが楽しい運動	陵器 水 上械泳
(2) ダンス 模倣・変身 の欲求に基 づくもの	リズム型	リズムを手がかりにし、それに対応し、自由に動く事により変身する事が楽しい運動	リズムダンス クロッ ジャズ等
	社交型	構成されているリズムカルな動きで変身し相手と対応することが楽しい運動	フォークダンス 社交ダンス
	民族舞作型	構成されているリズムカルな動きで変身しイメージ・対象を模倣表現する事が楽しい運動	バレエ 民族舞踊
	創作型	リズムカルな動きを自由に工夫し、イメージ・対象を模倣・表現する事が楽しい運動	モダンダンス等
2. 必要を充足するために工夫されている運動			
(3) 体操	向上 目的型	心肺機能，行動発現機能を高める運動	各種トレーニング エアロビクス
	維持 目的型	心身の調整機能を高める運動	徒手体操・ヨガ マッサージ ストレッチ
	矯正 目的型	回復を促進する運動	矯正体操 マッサージ

3. 学習のねらい（目標）

生徒から見た運動の特性が明らかにされれば、学習のねらいは、体育の目標の実現と関わりなから学習活動を方向づけるものになる。運動そのものの魅力を求める自発的・自主的な学習を組織しようとするならば、機能的特性を内在している運動そのものが学習者のねらいとなり、また学習の内容となることも意味する。

学習のねらいを基礎づけ、学習活動を方向づける運動の機能的特性は、その運動種目に内在するものであり、その運動種目を学習しなければねらいを達成することができない。つまり「運動の目的・内容」ということは、このことを意味している。このことは、学習のねらいは学習内容に含まれ、学習内容は学習のねらいに含まれる。

したがって、学習のねらいは「生徒達の実態に対応したその運動種目の機能的特性を求めること」として示され、「どんな運動のどんな楽しみ方をする」「どんな楽しみ方を求めてどん

な運動をする」というようになる。

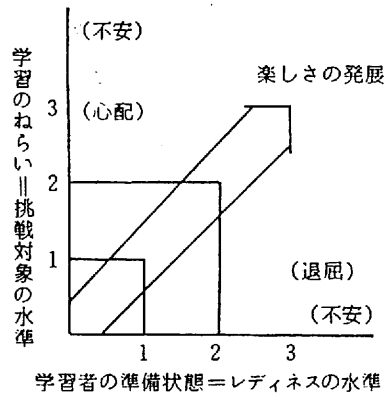
ここで重要なのは、多様な生徒達がそれぞれにねらいを達成できるようにするためには、個人差に対応できるように幅広い学習のねらいが立てられ、幅広い内容を含まねばならない。下手な生徒も上手な生徒も力一杯運動の学習に取り組むことが可能なねらいでなければならない。したがって、生徒達から見た特性が重視されなければならないのである。

4. 学習過程

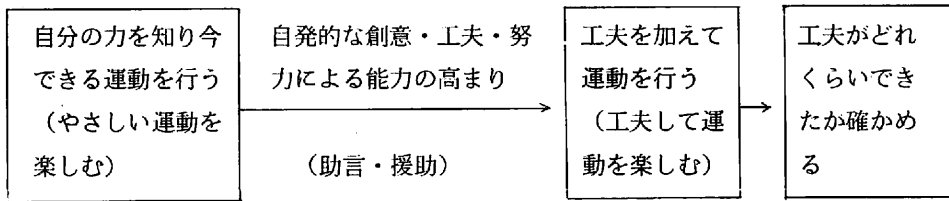
学習過程は、ねらいを達成するために必要な学習内容を区分けし、それを学習するために必要な学習内容を区分けし、それを学習の順序に従って配列したものである。具体的には運動の機能的特性を求め、それに触れながら学習を進めていく段階を、生徒のレディネスの高まりに視点を置いて、いくつかの「めあて」として区分けしたかたちになる。つまり学習に応じて運動の楽しさが深まり、広がるのが学習の発展であり、その流れが学習過程を考える基礎になるのである。運動の楽しさの深まり、広がりについては、次のようなものが考えられる。

(1) 楽しさの流れ

楽しさの流れは、挑戦者の能力と挑戦水準とのバランスによって保たれる。運動の楽しさは、生徒が自分の能力に合った学習のねらい・めあてに挑戦し、それを克服、達成した時に生じる。ねらい・めあてが高すぎれば、心配と不安、低すぎれば退屈と不安を感じるようになる。楽しさを求める学習の発展は右図のように示される。



(2) 特性ごとの学習過程のモデル



運動の楽しさや喜びを求める学習過程では、学習活動をとおして、「楽しみ方」を体得していくために、「今の力を十分生かして特性にふれる学習」の段階から「創意・工夫・努力を加えて特性にふれる学習」の段階へ歩むことになると、一層楽しさが深まる学習になる。

5. 学習形態

多様な「めあて」に応じた学習活動を運動の特性とのかかわりから組織・構成されるものであり、そのことが機能的特性にせまるものである。

その構成のしかたは、

(1) 解決しようとする問題の内容の似かよった仲間（集団）の構成。

- ① 挑戦課題の似かよった仲間を組織する。

② 問題解決の方法の似かよった仲間を組織する。

(2) 学習者の欲求や能力などの問題解決能力の水準の似かよった仲間（集団）の構成。

図2 具体的な学習活動を組織した学習形態

領域と特性	分類	種 目	グループの形態	性 格	行動様式	
1 スポーツ 挑戦の欲求 に基づくもの 個人的 対人的 集团的	克服型	器械・水泳	場所別グループ	自発的集団	流動的	
	競争型	達成型	陸上・器械・水泳	場所別グループ	自発的集団	流動的
		陸上・水泳	武道	競争グループ	自発的集団	流動的
			球技		制御的集団	固定的
2 ダンス 模倣、変身 の欲求に基 づくもの	リズム型	リズムダンス・ロック・サンバ・ジャズ	場所別グループ	自発的集団	流動的	
	創造型	モダンダンス	イメージ別グループ	制御的集団	固定的	
		民族舞踊型	バレエ・民族舞踊			場所別グループ
		社交型	フォークダンス・ソーシャルダンス			
3 体操 必要を充足 するために	向上目的型	徒手体操・ストレッチ・ヨーガ	場所別グループ	自発的集団	流動的	
	維持目的型	各種トレーニング・エアロビクス				
	矯正目的型	矯正体操・マッサージ				

このように学習形態は、運動の機能的特性から組織されるが、学習過程においては、特に練習等において、その性格や行動に変化が出てくる。それは、生徒の実態や学習の深まりによって変わってくる。

6. 学習活動

学習の目標達成に向けて、学習内容を習得するために行われる運動をいう。学習活動は、生徒の興味・関心・意欲・経験・技能・所属集団との関係が深く、これらのことが目的達成にかかわってくる。学習の進め方がわかり、自発的・自主的に活動ができることが重要になる。

7. 学習指導

生徒に対する教師の教育的働きかけをいう。学習者の自発的・自主的活動を援助する立場で指導にあたる。

8. 学習の場とルール

学習を能率的にしかも安全に行える「学習の場」として物理的な場である「施設・用具」と社会的な場である「集団」の2つの条件を整えることが重要であると考えられる。また、「ルール」も正規のルールにこだわらず、学習者の技能や興味、学習の場の状態によって、相手グループとの相談により決めていくことが大切である。

9. 学習資料

学習資料は生徒の学習をより自発的・自主的な活動へと深めていくための重要な手がかりとなるものである。学習資料の内容は、それぞれのレベルに対応して自分たちの学習のしかたをチェックしたり、修正したり、工夫できるものでなければならない。

学習資料の種類としては、図解、パネル、コンセプトフィルム、ビデオ、OHPなどがあるが学習ノート（個人カード）やグループノートも学習資料の一つである。

10. 学習評価

学習評価は、学習目的を達成するための種々の活動を評価し、その効果を判断して学習の改善を図ろうとする働きである。学習評価の方法は、個人による自己評価や個人及びグループ間の相互評価が中心となり、教師の評価の視点も学習者やグループのねらいに即して行われることが大切である。

IV 剣道学習の基本的な考え方

剣道は相対したふたりが「しない」を用いて、打つ、突くなどの攻撃とそれを防いで攻撃に転ずるなどの技術によって勝敗を競う運動である。「しない」を媒介するために他の武道種目と較べると試合の勝敗は個人の技能に大きく左右されやすい。剣道では相手との直接接触がごく限られているため、体格や体力に劣る生徒でも合理的に技術を駆使して勝ちを得る機会が十分に得られるのである。これは剣道のもつ大きな魅力のひとつである。ただ相手との直接的な打突の攻防のため、プレイが乱暴になりがちであるため、安全・ルール・マナーや打ち方の指導は特に重視する必要がある。

1. 一般的特性

- (1) 勝敗は技能が大きな要素となる運動である。
- (2) 注意力や決断力が高度に求められ、よい姿勢・礼儀正しさが必要とされる。
- (3) 生涯を通して長く競技することができる。
- (4) 安全に対する配慮が必要な運動である。

2. 生徒から見た特性

- (1) ねらった部位に一本決まったときはうれしい。
- (2) 打ち込み練習や互格練習で互いに教え合いながら打ち合いをすると楽しい。
- (3) 相手を変えて何回も試合をすると楽しい。
- (4) 防具をつけていないところを打たれると痛くていやである。
- (5) 防具は汗くさくていやである。
- (6) 基本動作を長くやるのでいやである。
- (7) 正座はきつい。
- (8) 防具をつけるのに時間がかかる。

3. 学習のねらいと道すじ

(1) 学習のねらい

基本動作を身につけながら、安全やマナーに気をつけ、相手に応じた攻防を工夫しながら試合を楽しむ。

(2) 学習の道すじ

① ねらい 1

面、小手、胴の打ち方や受け方を練習し、簡単なルールで試合を楽しむ。

② ねらい 2

相手との攻防の場面で、状況に応じた技を工夫して試合を楽しむ。

ア. めあて 1

攻防を工夫しながら、いまできる技を使って試合を楽しむ。

イ. めあて 2

相手に応じた技や自分の得意技を使って試合を楽しむ。

(3) 時間計画

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
オリエンテーション	ねらい 1 面, 小手, 胴の打ち方や受け方を練習し, 簡単なルールで試合を楽しむ。							ねらい 2 相手との攻防の場面で, 状況に応じた技を工夫して試合を楽しむ。 (めあて 1) (めあて 2)								

(4) 学習のねらいと活動

はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 剣道の特性を知る。 ◦ 学習のねらいと道すじを知る。 ◦ グループ編成 ◦ 役割分担 ◦ 資料の活用のしかたを知る。 	用具	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 剣道具 ◦ しない ◦ タオル ◦ うちこみ人形 ◦ 学習カード ◦ ビデオ ◦ 旗 ◦ ストップウォッチ
	<p>学習のねらいと活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ねらい 1 面, 小手, 胴の打ち方や受け方を練習し, 簡単なルールで試合を楽しむ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;"> <p>ゲーム 1</p> </div> <p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 立礼, 座礼 ◦ しないの持ち方 ◦ す振り ◦ 上下振り ◦ 斜め振り ◦ 剣道具のつけ方, しまい方 ◦ 体さばき (足さばき) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;"> <p>ゲーム 2</p> </div>	指導	<ul style="list-style-type: none"> ◦ めあては適切か。 ◦ 安全やマナー, ルールに気をつけているか。 ◦ しないの持ち方は適切か。 ◦ 左こぶしは体の中心線を通して, 振っているか。 ◦ 互いに協力してスムーズにできているか。 ◦ 足の運びはなめらかであるか。 ◦ ゲームのしかたが理解されているか。

	<p style="text-align: center;">ゲーム 1</p> <p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 打ち方と受け方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 面打ちと受け方 ・ 小手（右）打ちと受け方 ・ 胴（右）打ちと受け方 ◦ かかり練習，互格練習 <p style="text-align: center;">ゲーム 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 打突部に確実にあたっているか。 ◦ 声はだしているか。 ◦ 正しい受け方をしているか。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ ルールは適切か。
<p>な か 50 × 8</p>	<p style="text-align: center;">ねらい 2 相手との攻防の場面で，状況に応じた技を工夫して試合を楽しむ</p> <p>めあて 1の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ グループ別に練習方法，練習内容を考えて練習する。 ◦ 相手グループを決めて，勝ちぬき戦や総あたり戦を行う。 ◦ 試合のしかたや審判のしかたを身につける。 <p>めあて 2の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 技能にかよった対戦相手を決めて試合を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分にあつためあてになっているか。 ◦ 正しい打突になっているか。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 技能に即したルールになっているか。 ◦ 役割は守られているか。 ◦ 審判のしかたは適切であるか。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 得意技で攻めているか。 ◦ 相手の欠点を見つけて攻めているか。
<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自己評価を行う ◦ 相互評価を行う ◦ 授業についての反省及び感想 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ねらいは達成されたか。 ◦ 自発的な活動ができたか。 ◦ 剣道の楽しさがわかったか。

V. 学習資料

1. 剣道指導のポイント

(1) 学習活動での配慮事項

剣道は相手との関係において、「攻めた」「かわした」そして「打てた」という喜びの味える競技である。したがって、これらの喜びや相手に勝ちたいという欲求を充足させるため、個人で身につけなければならない課題や相手との競争の中で身につけなければならない課題を見つけ、自発的・自主的に学習を進めるようにしなければならない。

相対した2人は、互いに「打ちたい」「打たれたくない」という相反する関係で向かい合っているわけである。そこで自分に有利な状態を作るために、相手の構えをくずしたり、動きや反応を利用したりすることが必要である。個人の身体的条件や技能による多少の差は、

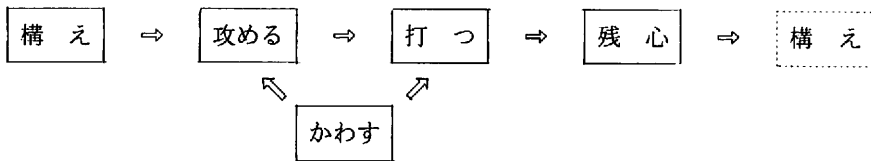
得意技や攻め方の工夫によっては克服できるものである。自己の課題を見つけ工夫してさらに試みるというくり返しが必要である。そして、これまで勝てなかった相手にも努力して勝つことができるように練習すべきである。

(2) 作戦での配慮事項

剣道では、相手によって攻め方や使う技を考え、自分の得意技で相手の守りをくずして打ちこんだり、相手の弱点となりそうなところをたくみに突くことが学習課題である。

はじめの段階では、相手が打ってこないうちに自分から積極的に打ち込んでいくことが大切である。さらにしかけていく技で攻めたり、相手の動きや打ちに合せて応じながら打つなどを工夫していく。その中から、自分のやりやすい技や攻め方の工夫が生まれ、やがて得意とする技を身につけることができるであろう。

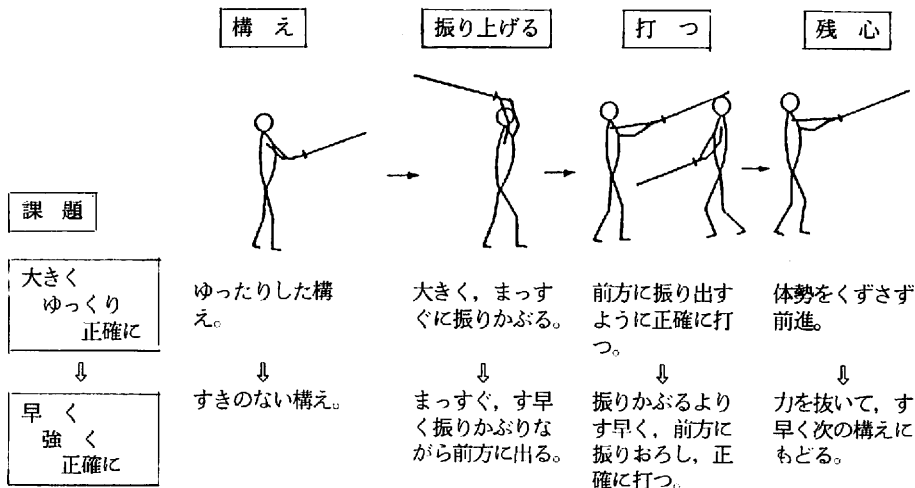
相手を「打ち込む」という状態を、動作の流れとしてとらえてみると下の図のようになる。



(3) 基本動作等における配慮事項

① 打ち方の指導

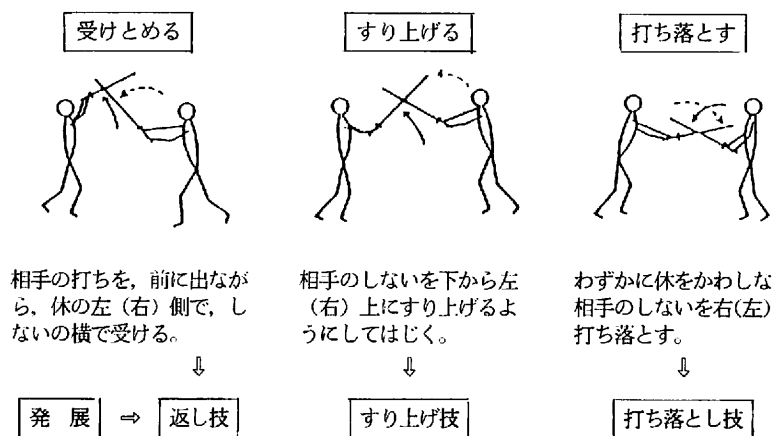
剣道では一瞬のうちに勝敗が決まるので、打つ動作も瞬時のうちに必要な要素を満たしていなければならない。そのために、「打ち方」として剣道で最も基本的な動作を、「大きく、ゆっくり、正確に、からしだいに「早く、強く、正確に」していかなければならない。



② 受け方（かわし方）の指導

剣道では攻防は一瞬であり、常に自分から攻める心構えが必要である。したがって、はじめから受けることを考えていれば、攻めることが消極的になりがちである。「受ける」のは相手の打ち方を受け止めるだけでなく、相手の打ちをかわしながら自分の打ちで反撃する。いわゆる「応じていく技」へつなぐことが大切である。

練習方法としても打たせる・受ける動作が必要になる。「打ち込み練習」や「かかり練習」などと呼ばれる練習法では、打つ技術の練習とそれを受けたり、打たせたりする技術も必要である。そのことが、応じていく技の練習にもつながることになる。



③ 攻め方・かわし方の指導

相手に対したとき、相手との関係で生じる攻防やかけひきが大切な要素である。自分の攻め方が見事に成功したり、相手を自分の思うつばに引きこんだりしたときが剣道の楽しさである。したがって、相手の攻め方や打ち方などの状態をみて、自分の攻めをどうするか考えたり、相手を確実に打ち込めそうな得意技を工夫してみたりすることが、技術学習の最大の課題である。

指導のポイントとしては、相手を攻めて先に打ちを出させそれに応じるなど、積極的な働きが大切である。二段技の小手→面でも、一つの技としてとらえ、一連の動作として練習させる。払い技も同じで、払ったときにできるすきに応じて打つのではなく、払うのと打ちを一つの組み合わせとして、払い面などの技を考えて指導する。また、個人の特性に応じた攻め方の工夫をさせることも大切である。

④ 試合の指導

試合は個人対個人で、技能のにかよった者同志で行うことを基盤にし、相手にどうすれば打ちこめるか、どうすれば勝てるかが課題である。そのために、次のような観点から工夫するように指導する。

- | | | |
|---------------|------------|----------------|
| ア. 積極的に技を出す。 | イ. よく動くこと。 | ウ. 相手より先に技を出す。 |
| エ. 打つ機会をとらえる。 | オ. 元気なかけ声 | |

⑤ 審判法

審判は3人制で行うのが一般的であるが、はじめは1～2人で行ったり、グループみんなでみる方法もある。どの方法をとるか、段階に応じて行うようにする。

ルールは技能の程度や学習のねらい等によって工夫することが必要であり、グループや個人の話し合いによって、簡単なルールから、だんだん正式なルールに近づけていくようにする。

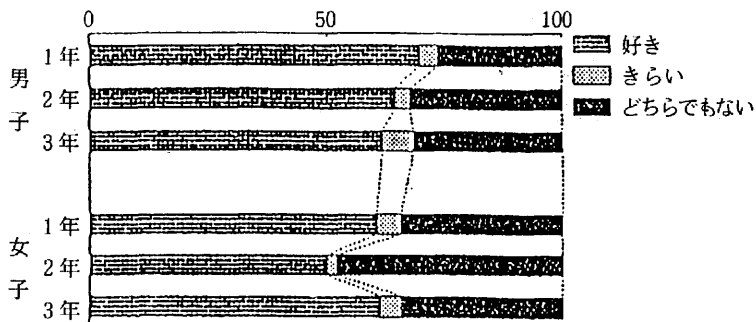
	試合 I	試合 II	試合 III
段階	基本的な打ち方や受け方での試合	簡単な攻撃技を使っでの試合	攻め方・かわし方を工夫しての試合
判定基準(例)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 打つべき部位に当たっていること。 ○ 打つべき部位の意志表示(発声)があること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前後の体さばきがある。 ○ 相手より先に打っている。 ○ 打ちに強さ(音がはっきりする)がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体さばき(姿勢)や構えがくずれない。 ○ 攻めて、かわして、打っている。 ○ 強さとスピードがある。

(4) 学習過程の工夫

これまでの学習過程は、基本動作や対人技能を中心に学習を進めるために、技の形を練習するだけで単元が終了したり、試合内容が極めて少ない、試合を主にした学習内容を考えることによって、生徒が課題に応じて練習や試合に取り組むことができると思われる。

2. 生徒の実態

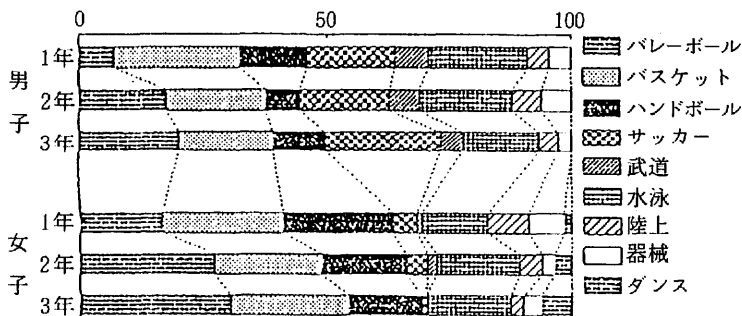
(1) あなたは体育の授業は好きですか。



70%の生徒が「好き」と答えているが、まだ30%の生徒が「どちらでもない」と答えている。主な理由は、好きな種目もあるが、きらいな種目があるためと答えている。

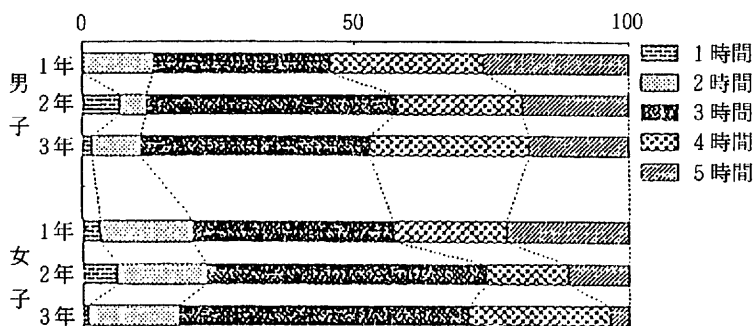
きらいな種目をどのような指導法で好きにさせるか、今後の課題である。

(2) 体育の授業で好きな種目を3つ選びなさい。



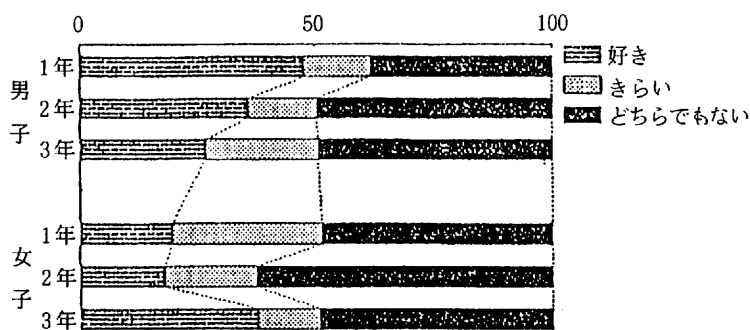
男子ではバレーボール・バスケットボール・サッカー・水泳、女子ではバレーボール・バスケットボール・水泳にかたよっている。陸上・器械・ダンス等の個人種目をいかに好きにさせるか、選択制授業とのかねあいも考えながら、今後も研究していかなければならない。

(3) 体育の授業は週何時間あった方がいいですか。



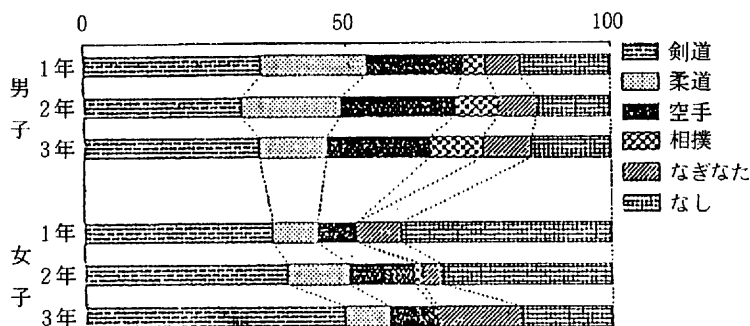
ほとんどの生徒が3～5時間を希望している。体育の授業を週4時間に持っていくためには、学校内での選択教科を確保することや教科内での教師の授業時数の見直し、施設・用具の整備等いろいろ考えられる。

(4) 武道は好きですか。



男子では「好き」と答えた生徒が30%以上、「どちらでもない」を合わせると80%近くになるので初の剣道の授業としては導入しやすいものと思われる。以外だったのは、女子でも「好き」と答えた生徒が25%以上もいる。ほとんど未経験であるが興味があると思われる。今後は女子の武道の授業も考えていかなければならないと思われる。

(5) 武道の中でやってみたい種目を選びなさい。(何種目でもよい)



男子では「剣道」が一番多く、続いて柔道、空手となっている。沖縄古来の武道である空手も希望が多いので、授業で取り上げなければならないと思う。女子では「剣道」が圧倒的に多く、続いて空手や柔道となっている。今後は選択制授業や男女共習として、考えていかなければならないと思われる。

3. 学習カード

剣道 個人カード () 組 () 番 氏名 ()

※ 自己評価は3.2.1で記入

(3. 大変よい 2. ふつう 1. あまり良くない)

時間 (曜日)	学習活動	個人のめあて (作戦)	達成できたか	今日の試合で気づいたこと ことや疑問に思ったこと	上達しつつある技 又は新しい技	楽しかったか	動けたか	マナーは	対戦成績 勝・敗
1 (/)									・
2 (/)									・
3 (/)									・
4 (/)									・
5 (/)									・
6 (/)									・
7 (/)									・
8 (/)									・
9 (/)									・
10 (/)									・
11 (/)									・
12 (/)									・
13 (/)									・
14 (/)									・
授業全体を通しての感想									

VI まとめと今後の課題

いかにすれば、生徒自ら授業をとおして運動の楽しさをあじわえることができるか、そのためにはどのように学習を進めるべきか、学習指導はどのように工夫すべきか、を研究テーマに研修してきたが、日頃の勉強不足がたたわり、研究がなかなか進展せず、アッという間に4か月がすぎてしまいました。

その間、参考図書資料や研究集録を基にして、理論研究を進めてきましたが、なかなか理解できず、悩んでいたが東恩納指導主事の指導助言により、体育学習の基本的な考え方や進め方がいくらか理解できた。運動を目的・内容とする体育学習や、運動の特性、めあてのもたせ方、学習過程、学習形態等今後の授業の考え方、進め方がある程度イメージとして取らえることができた。今後は授業実践をとおして授業のイメージをどう生かしていくか、どうふくらませていくか、生徒の実態も考慮しながら実践し、授業改善に努めていきたいと思います。

生徒の実態によると剣道は「好き」「どちらでもない」と答えた生徒が80%近くいるので、剣道の授業は実施しやすいと思われる。女子も経験したことはないが、やってみたいと思っている生徒が30%近くいるので、今後、男女共習や選択制授業の実施に向けて研究していかなければならないと思う。

今後の課題

- 学習指導の工夫
- 学習資料の作成や活用の仕方の工夫。
- 学習評価を評定にどう結びつけていくか。
- 武道の男女共習や選択制授業の考え方、進め方の研究

終りに

研修期間中直接指導して下さった、福山所長、大城主査を始め、各関係機関の先生方のおかげで無事研修が修了できたことを深く感謝申し上げます。

〈参考文献・資料〉

宇土正彦編著	体育科教育法入門	大修館書店	昭和62年
宇土正彦編著	体育授業の研究	大修館書店	昭和62年
浦井孝夫・石川哲也著	中学校新教育課程の解説	第1法規	平成元年
湯野正憲・岡村忠奥著	剣道教室		
文部省	剣道指導の手引		
県立教育センター	研修報告集録		昭和63年
仲井真中学校	研究集録		昭和63年
福嶺中学校	研究集録		昭和62年
与那原中学校	研究集録		昭和62年
下地中学校	研究集録		昭和62年
川満弘志	研究論文		昭和63年
菱山一正	研究論文		昭和63年